

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第13号

イチゴのハダニ類および灰色かび病の発生について

イチゴのハダニ類については、平成27年12月1日付け、27農林試第1479-2号技術情報第12号で注意喚起したところですが、11月以降12月中旬まで高温が続いている影響で、例年に比べて多発傾向にあります。また、向こう1カ月の気象予報でも気温は平年より高い見込みで、今後多発傾向が続くものと予想されます。多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、初期防除を徹底しましょう。

また、曇天や降雨が続いたため、12月3半旬調査で、灰色かび病の発生ほ場が急激に増加しています。向こう1カ月の気象予報でも、降水量は平年より多い見込みで、今後多発が予想されます。ハウスの換気、摘果・摘葉、予防散布の徹底など、防除対策に努めましょう。

1 対象作物名：イチゴ

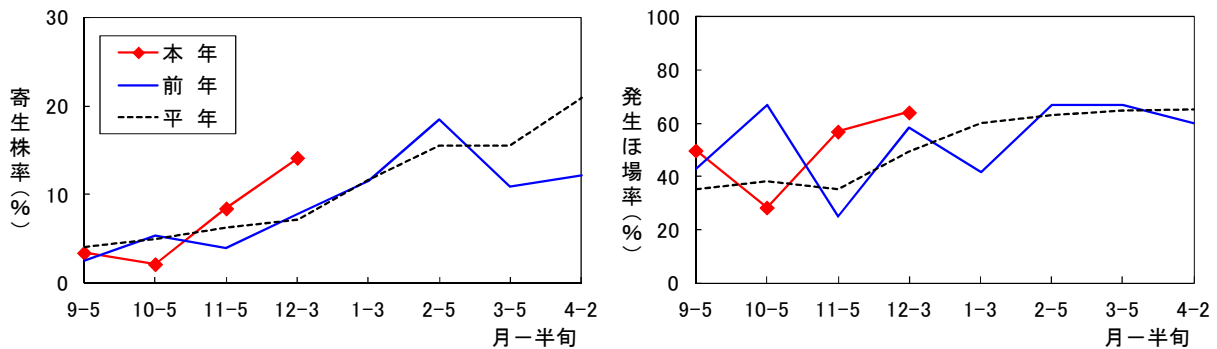
2 病虫害名：ハダニ類、灰色かび病

3 発生状況

(1) ハダニ類

12月3半旬調査の結果、寄生株率は14.1%、発生ほ場率は64.3%であり、平年・前年より高く、11月5半旬調査に続き多発傾向にある。

- ・ 12月3半旬の寄生株率 **14.1%** (平年 7.2%、前年 7.8%)
- ・ 12月3半旬の発生ほ場率 **64.3%** (平年 49.4%、前年 58.3%)



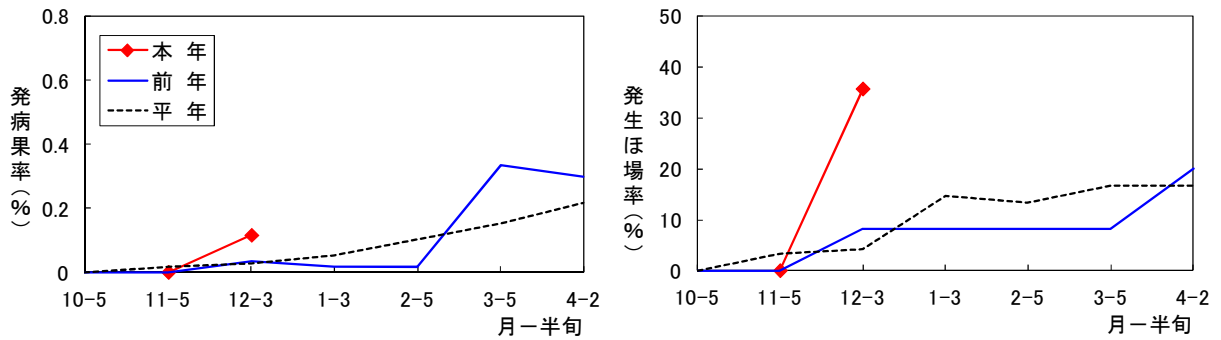
ハダニ類の発生推移

(2) 灰色かび病

12月3半旬調査の結果、発病株率は0.12%、発生ほ場率は35.7%であり、平年・前年より

高かった。

- ・ 1 2月 3 半旬の発病株率 **0.12%** (平年 0.03%、前年 0.03%)
- ・ 1 2月 3 半旬の発生ほ場率 **35.7%** (平年 4.2%、前年 8.3%)



灰色かび病の発生推移

4 防除上注意すべき事項

(1) ハダニ類

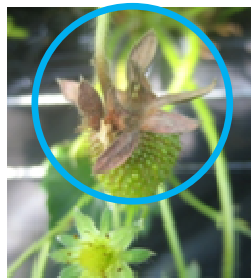
- ア 하우스内の除草を徹底し、本虫の増殖源を絶つ。除草した雑草や摘葉した葉はハウス内に放置せず、ビニル袋等に入れて密封し処分する。
- イ 多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、初期防除を徹底する。なお、防除は摘葉後に行うと効果的である。
- ウ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- エ 天敵を利用する場合は、薬剤の選定に留意する。

(2) 灰色かび病

- ア 하우스内の多湿により発病が助長されるので、こまめに通風・換気を行う。
- イ 罹病果や罹病葉の早期発見に努め、見つけ次第速やかに取り除く。
- ウ 収穫後の果梗は、放置すると感染源となりやすいので、早めに取り除く。
- エ 病勢が進展すると防除が困難となるため、初期防除を徹底する。
- オ 葉柄のつけねにまで薬剤がかかると、丁寧に薬剤散布する。
- カ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



ナミハダニの雌成虫および卵



がくの病徴



果実表面の病徴

灰色かび病の病徴